

# SENSAI

THE SENSE AND SCIENCE OF JAPAN

魅せながら守り、シルキィな艶肌へ。

SPF50+の微細なオイルのヴェールが紫外線から肌を守るサンケアスプレー

「センサイ S B クーリング プロテクティブサンケアスプレー」

2024年7月3日（水）より数量限定発売



SENSAI ブランドサイト：<https://www.sensai-cosmetics.com/jp/ja/>

カネボウ化粧品は、日本の繊細な美意識をグローバルに発信するプレステージブランド『SENSAI（センサイ）』より、エイジングケア\*1をしながら紫外線を防ぐサンケアスプレー「センサイ S B クーリング プロテクティブサンケアスプレー」を2024年7月3日（水）より数量限定で発売いたします。

\*1 年齢に応じたうるおいとハリのお手入れのこと

## ◆コンセプト

魅せながら守り、シルキィな艶肌へ。

太陽と海の青に誘われ贅沢な時を過ごすヴァカンス、  
輝く光のもと、艶めく美しい肌を魅せるように楽しむ女性たち。

SENSAI S Bシリーズは、強い日差しの下でも心地よく過ごせるシリーズとして生まれ  
欧州で長く愛され、改良を続けてきました。

# SENSAI

THE SENSE AND SCIENCE OF JAPAN

2024年春、世界的に高まりつつある環境配慮へのアプローチとして水環境リスク評価済みで、環境に配慮した処方設計※でリニューアル。S BシリーズよりUVプロテクションアイテムが、ついに日本に上陸。3月に発売したフェイス用サンケアクリームに続く、2品目としてサンケアスプレーが登場します。

※製品の使用による日常生活での洗い流しやレジャー時の環境流出を考慮し、水環境の生態系への影響が懸念されない処方設計。国際的な環境影響評価に関するガイダンスの考え方を参考に水環境リスク評価を行い、環境影響を判定しています。

## ◆商品概要

センサイ S B クーリング プロテクティブサンケアスプレー

100g

SPF50+・PA++++

UV 耐水性★★

数量限定発売

9,500 円 (税込 10,450 円)

2024年7月3日(水) 発売予定



進化したラグジュアリーを体現するサンケアスプレー。

ひんやりとしたつけ心地、うるおいを閉じ込めた、SPF50+・PA++++の微細なミストがシアーなヴェールに変化し肌を包み込む。厳選したブレンドオイル配合でベタつかず、ノンストレスで肌にも髪にも塗り直し可能。ユニフォームクールシールド処方により肌にひんやりとした感覚を与えつつ、太陽の下で輝くつややかなシルクスキンへ。艶めくシルキィな仕上がりのサンケアスプレーは、太陽の下でも贅沢な時間を楽しみたいと願う人びとの声に応えるエイジングケア\*1UVとして誕生。

・フレッシュピーチの香り

\*1 年齢に応じたうるおいとハリのお手入れのこと

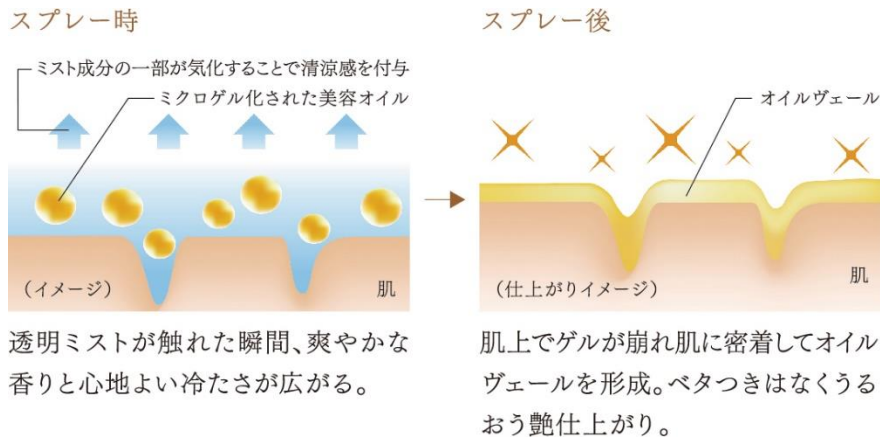
## <処方特徴>

### ユニフォームクールシールド

スプレーした瞬間に-3°Cの清涼感\*2に包まれます。厳選した美容オイル(保湿)をブレンドして細かいゲル粒子へとミクロゲル化することにより、肌に寄り添うように密着。さらに肌に密着した瞬間にゲルがオイルヴェールへと変化。心地よいうるおい感と艶感を感じながら、肌を紫外線から守ります。

# SENSAI

THE SENSE AND SCIENCE OF JAPAN



\*2 つけた瞬間の感触

## <使用方法>

上下に数回振り、肌や髪から10~15cmくらい離して適量をスプレーし、なじませます。顔に使用の場合は、一度手のひらに出してから、少量ずつなじませてください。メイクの上からも同様にお使いください。肌がぬれている場合は、軽く水気をふきとって使うことをおすすめします。

## <持続可能性への取り組み>

・FSC認証紙を使用した外箱の一部に、サトウキビの搾りかすをリサイクルした非木材繊維材料のバガスを使用しています。

## ◆SBシリーズとは

ヨーロッパではヴァカンスを楽しむ文化があり、日焼けに対しての価値観も様々。その様々な価値観に合わせ、強い日差しの下でも心地よく過ごせるシリーズとして、欧州で長く愛され、改良を続けてまいりました。

UVプロテクションだけではなくエイジングケア\*1も両立する、そのような想いで設計されたアイテムは、欧州で15年前に発売以降、高価格サンケア商品として愛され続けています。また、水環境リスク評価済みで、環境に配慮した処方設計※です。SENSAIならではのなめらかなシルクスキンの仕上がりへのこだわりも人気の秘密です。

※製品の使用による日常生活での洗い流しやレジャー時の環境流出を考慮し、水環境の生態系への影響が懸念されない処方設計。国際的な環境影響評価に関するガイダンスの考え方を参考に水環境リスク評価を行い、環境影響を判定しています。